

## 神戸市外国語大学が抱える課題（意見整理）

**課題 1. 地域との連携、教育研究成果の地域還元への制約****【対応する条件】**

条件①：地域ニーズへの的確な対応ができていること

条件②：研究・教育成果が十分に市民・地域へ還元されていること

**【具体的な課題】**

- ・外国語学部の小規模単科大学であることによる教育研究資源の制約や、主たる研究領域が外国学であるという特性から、地元産業、地元教育機関との継続に限界があること。
- ・単科大学では、関心を持つ志願者層が限定されることに加え、全国唯一の公立の外国語大学として広域から志願者を集める特性から、市内志願率の向上には限界があること。
- ・大学設置当時と比較して、グローバル化の進展に伴い、地元企業の求人内容と外国学を主たる教育分野とする大学の人材育成方針との間にギャップが生じている可能性があること。

**課題 2. 大学の独自性の低下****【対応する条件】**

条件③：近隣他大学との差別化が図られ、独自性があること

**【具体的な課題】**

- ・グローバル化の進展に伴い、外国語系・国際関係系の学部が市内及び近隣の大学に数多く設置される中、設置当時と比較すると、大学の強みであった領域の固有性が低下しており、「語学＋ $\alpha$ 」の教育内容についても差別化が十分でないこと。
- ・語学スキルの取得手段の多様化やAIの急速な進歩などにより、語学教育そのものに対する学生のニーズが変化しており、他の大学が「語学＋専門」の組み合わせを強化する中、外国語大学という枠組み自体に社会的要請との乖離が生じている可能性があること。
- ・一方で市内高校からは語学教育の専門性の高さが大学の特色として認知されているものの、「語学＋専門」の要素を拡充することにより、かえって他大学との差別化が薄まるジレンマが生じること。

**課題 3. 将来的な持続可能性への懸念****【対応する条件】**

条件④：運営的・財政的な持続可能性があること

**【具体的な課題】**

- ・18歳人口の急速な減少に加え、国の高校改革、高等教育改革を通じた理系人材育成の強化の方針に大きく影響を受ける可能性があり、他大学が特色ある取り組みを打ち出す中、今後相当な特色を打ち出さない限り、将来にわたる学生確保は困難となる恐れがあること。
- ・今後、他大学との競争に耐え得る抜本的な教育改革や分野横断的な展開が必要となる場合、教育研究資源に制約がある小規模単科大学では、改革の幅の

制約や、教育研究体制の再構築までの実行スピードに限界が生じるおそれがあること。

#### **課題 4. ガバナンス・改革推進体制の課題**

##### **【対応する条件】**

条件①：地域ニーズへの的確な対応ができていること

条件②：研究・教育成果が十分に市民・地域へ還元されていること

条件⑤：将来ビジョンと強い改革意欲をもって運営できていること

##### **【具体的な課題】**

- ・ 設立団体をはじめとする地域との連携や教育研究成果の地域還元が求められる中、大学の3ポリシーへの反映や教員評価制度の整備が不十分であるなど、ガバナンス上の課題がみられ、教員の主体的な地域貢献への対応の実効性の確保が十分でないこと。
- ・ 2018年のグランドデザイン答申以降、各大学が2040年を見据えた大学改革や特色ある教育プログラムを打ち出す中、中長期的な改革方針が明確に示されておらず、環境変化に対応した大胆な改革を推進する体制に課題があること。